札幌地区労連ニュース

〈発　行〉
札幌地区労働組合総連合
発行者　木村　俊二
札幌市白石区菊水５条１丁目４−５
TEL815−4700　FAX815−8219

誰もが暖かい冬を迎えよう
越冬共闘スタート集会

9月21日（水）、「越冬共闘スタート集会」がかでる２・７で開催されました。この集会は、道民全てに燃料手当、寒冷地手当の支給や改善を求めて毎年開催される集会で、今年で８年目となります。ここには官・民の労組から72名が結集しました。

冒頭、主催者を代表して北海道国公小玉議長から「燃料手当に関わらず、賃金や他の待遇においても官が下がれば民も下がる。この図式は変わらない。共闘して暖かい冬を迎えよう」と挨拶があり、続いて道農協労連の九村書記長から「職員の４分の１が非正規で燃料手当が支給されていない。処遇の差別をなくすよう闘っている。また、地方では自治体職員の給与に準拠していることから、地域の給与水準を引き上げることが重要。官民一体で奮闘しよう。」と連帯挨拶が述べられました。

この後、道生連の佐藤事務局長を講師に、各自治体が行っている冬季間の暖房費貸付制度の活用や、生活保護、高齢者、障害者といった社会的弱者への支給が減額され、生活が困難になっている実態などが報告されました。

各労組からは、燃料手当の必要性を求めて決意表明が述べられました。「越冬手当・寒冷地手当は必要経費である。介護職場で夜勤手当が２千円上がった成果を教訓に、寒冷地手当の改善にむけ頑張りたい。」「タクシー職場では組合の合意なしにオール歩合制が導入され燃料手当はおろか一時金も出なくなった。今、労働委員会で争っているが何としても勝利し、燃料手当の支給を復活させたい。」「公務員の再任用職員にも寒冷地手当が支給されるよう人事院へ追及を強める。」「福祉・介護・保育の職場でも非正規職員が増えているが、手当など正規職員と処遇に差がある。最賃での生活では風邪を引いても病院に行くお金がなくポカリスエットとリンゴで済ませた。こんな状況を改善したい。」との決意表明がなされたほか、「昨年は満額回答が出された。これは長年の越冬共闘による産別団交の成果だ。今年も共闘していきたい」と決意が述べられました。

最後に行政や自治体に対しての要請書が採択されたのと合わせて、毎年行っている東北被災地への募金を、今年は台風の被害が甚大なため、道内へ募金を送る事が確認されました。

戦争法強行から１年
発動阻止！改憲許さない総がかりへ

9.19総がかり行動に１５００人

昨年の戦争法強行から１年を迎える９月19日に札幌でも「戦争させない北海道委員会」が、戦争法廃止！憲法改悪阻止の総がかり行動を行い、１５００人が参加しました。

北海道平和フォーラムの長田秀樹代表「戦争法の廃止、憲法改悪を許さないため市民と共闘を広げ発展へともにたたかいましょう」と呼びかけました。北海道憲法共同センターの黒澤幸一共同代表は「一日も早く戦争法を廃止し、立憲主義を取り戻そう」と訴えました。先の衆議院５区補選で野党統一候補として奮闘した池田真紀民進党北海道５区総支部代表らも訴えました。サウンドデモで「平和守れ」「改憲反対」などの訴えに「がんばれ」と沿道から声援を送る女性もいました。

全印総連はスタンディングで戦争法廃止を訴え！

全印総連中央本部は、今年７月の定期大会で９月20日の「労働法制改悪阻止・戦争法廃止の産別ストライキ」を提起しました。

北海道機関誌印刷労働組合は、昨年９月の定期大会でストライキ権を確立しており、今回の提起をうけて９月20日の12時～12時30分間、ＪＲ手稲駅コンコースにおいて、スタンディングアピールに取り組みました。

プラカードや全印総連の組合旗を見入る通行人もおり、支援する通行人もいました。行動には６人が参加し、札幌地区労連からも木村事務局長、末田幹事も参加しました。

―臨時国会開会―
安倍暴走政治ストップの国民的共同を

９月26日、ＴＰＰ批准、社会保障切り捨て、労働法制改悪、原発再稼働、沖縄米軍基地建設など国民的な課題が山積するなか、臨時国会がはじまりました。

安倍自公政権は国民世論を無視してＴＰＰ批准をはじめ、労働法制改悪、憲法改正審議など暴走政治を進めようとしています。

今、求められているは、災害復興支援や国民の暮らしや雇用、社会保障の充実です。

こうした国民の願いに背きアメリカや大企業優先の安倍暴走政治をストップさせる市民運動の前進が求められています。

また、戦争法が強行成立して１年。戦争法による南スーダンへ派遣している自衛隊に「駆けつけ警護」の任務が運用される予定です。海外で自衛隊が「殺し殺される」危険が現実味をおびています。戦争法廃止！９条を壊す自民党改憲案をベースにした「改憲審議」を許すな！の市民運動を大きく広げ、国会内で野党共闘を前進させ、来たるべき総選挙で安倍政権を退陣させるため全力を上げましょう！

開会日には、札幌でも「国会開会日アクション」が開催され、１５０人が参加。

集会では道労連黒澤幸一議長が「小樽のドリームビーチで陸上自衛隊が水陸両用訓練を行い、苫小牧の行動では戦車が走っている」と日本が戦争する国へ突き進んでいる危険な実態を訴え、真下紀子道議は「泊原発で８つの貯水タンクが耐震強化されていないことが明らかになった。安全無視の姿勢では道民の命を守れない」と厳しく批判しました。道農民連の野呂光夫書記長は「今国がやるべきことはＴＰＰ批准ではなく災害支援だ」とＴＰＰ批准強行を断固許さないと厳しく糾弾。斉藤耕弁護士は「過労死を拡大する残業代ゼロ法案はなんとしても止めさせよう」と訴えました。

集会後のサウンドデモでは「数の力で勝手にきめるな」と安倍自公政権の暴走政治ストップを市民にアピールしました。

パークゴルフで交流

結のパトリック、恵和会労組の塚本さんが優勝

9月24日、えべつ角山パークランドで2016年札幌地区労連パーク交流会が行われました。前日の雨で天候が危ぶまれましたが当時は晴天。絶好のパークゴルフ日和となりました。午前中はパークゴルフ36Hを行い、熱戦を繰り広げました。好プレ、珍プレーが続出しました。結果は男子の部で札幌ローカルユニオン結のパトリック・オブライエンさんが木村事務局長とタイで1位。3位に元全動労争議団の梅木さん、4位に前地区労連事務局長（元副議長）の湯本さんも入賞。女子は恵和会労組の塚本さんが優勝。2位に同じく恵和会労組の松原さん、3位に湯本さんが入賞。ホールインワン賞に木村事務局長。プレー後はおいしいジンギスカンとビールで喉とお腹を満たし交流も深まりました。

韓国チュンナム地域労組と交流

韓国民主労総・忠南（チュンナム）地域労組の皆さんが、労働組合との交流を目的に9月8日から4泊5日の日程で札幌を訪れました。9月9日には、札幌地域労組鈴木一副委員長の引率で、道労連も表敬訪問を受け、懇談しました。懇談には、地区労連からも赤坂議長、木村事務局長が参加しました。

9月10日には、自治労会館を会場に、「日韓労働者の連帯と東北アジア平和のための交流会」が開催されました。

自治体の非正規労働者の組織化に積極的に取り組む忠南地域労組の活動の報告をはじめ、韓国労働者のたたかいの現状を学ぶ機会となりました。

夜には、懇親会も行われ、チュンナム地域労組の皆さんから、韓国の抵抗歌「朝つゆ」という歌が披露されました。お酒を交えての和やかな交流・連帯の場となりました。

頑張ってます！拡大情報

アイワードの取り組みから

8月1日にアイワード本社において新入社員対象のガイダンスを行い、5名の新しい仲間を加える事が出来ました。

アイワード労働組合の組織率は近年徐々に低下しており、現在は全体の過半数を割る状況となっています。理由の一つは組合員の退職や諸々の理由による脱退が進んだ事。もう一つはそれとは逆に、新規採用が進まず人が増えない事が挙げられます。しかし、今年度は久々に新卒採用が行われたため、数年ぶりに新入社員対象者は新入社員と、近年に中途入社した方で合わせて約20名の対象者のうち、11名が参加して頂きました。

北海道地連船水委員長の挨拶から続き、土居書記長、須田労組の道永書記長、そして当該労組執行部からそれぞれ説明を行いました。

参加者の方達のやや堅い雰囲気を感じながらのスタートでしたが、他の印刷会社の方が来ての話自体が新鮮だったらしく、みんな真剣な眼差しで話を聞いてくれていました。また、アイワードの執行部からは、各々の労組での体験談や職場の中で感じている事を1人ずつ話していきました。

短い時間の中で、我々自身も試行錯誤しながら、組合活動についてをどう伝えるか、その結果どの位の方が組合員になってくれるのか非常に不安でしたが、賛同して仲間に加わってくれる方が出来た事を嬉しく思います。（アイワード組合員からの寄稿）

参加者は16人と少なかったですが連帯と団結も深まり、日頃の疲れを癒やす、とてもリフレッシュできた交流会でした。

全労連青年部が定期大会

9月24～25日両日にかけて、東京・全労連会館において、全労連青年部第29回定期大会が開催されました。

道労連からは、青年協議長の青山泰希さん（ローカルユニオン結）が常任委員として。同じく青年協事務局長の平田和之（建交労・地区労連幹事）が傍聴として。青年協事務局次長の笠松大輔さん（勤医労）が代議員としてそれぞれ参加しました。

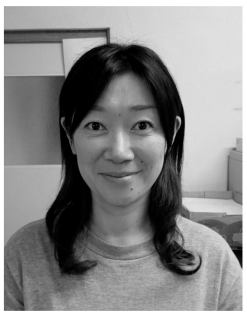
大会2日目の一般討論では、笠松さんが発言しました。

道労連青年協の1年間の活動報告。そして、札幌圏を中心に活動する青年組織との連携等の内容や、より多くの青年組合員を結び付け連帯し合って組合活動へ取り組んでいく。道労連青年協はそういった企画や活動へ継続的に取り組んでいきたいという決意の内容でした。

定期大会に併せて行われた青年企画コンテストでは、道労連青年協でこの1年取り組んできた企画、3つがエントリーされました。

全労連青年部の新役員体制では、道労連より青山泰希さんが、常任委員として再任されました。

新幹事紹介　安達　朋栄　さん



みなさま、こんにちは。札幌保育労組の安達です。

この度、保育労組から地区労連の幹事を、ということでお引き受けさせていただきました。

普段の仕事は東区の認可保育園で保育士として働いています。皆様もご存じの通り保育現場は、待機児童問題、保育料の問題、保育士の処遇改善問題等々課題が山積みです。子どもたちの笑顔を守るために保育士ができることはなにか？を仲間とともに考えながら運動をしているところです。

また、家庭では5歳と2歳の男の子の母親です。日々、やんちゃな二人と一緒に家事、育児、仕事、その他諸々…バタバタと忙しくも楽しい毎日を送っています（笑）。

私は保育士として、保護者として様々な課題に向き合い闘っているところです。そのパワーを地区労連でも活かしていきたいと思っています。まだまだ身近なところだけで頭がいっぱいですが視野を広くもち、緒先輩方のお話を聞き学びながら頑張っていきたいと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。

17春闘共闘結成！

12/3~4 定山渓で学習討論集会

2017年国民春闘共闘北海道委員会が9月28日結成総会を開催し発足しました。

17春闘勝利にむけ、役員体制、財政、当面闘争について決定しました。

当面の取り組みでは、12月3日～4日、定山渓ビューホテルで春闘学習討論集会を開催することを決定しました。

今回は賃上げ闘争を社会的な「賃金闘争」に前進させるためみんなで5人程度の「グループトーク」で討議を深める企画などが、確認されました。

役員には赤坂議長が副代表幹事、木村事務局長が会計監査に選ばれました。